

# Akatake Times

Vol. 28  
(通算 第181号)

明けましておめでとうございます！  
本年も社内報をご愛読いただけますよう、お願い申し上げます。

表紙を飾るのは、清々しい青空と社屋を背景に撮った、三役の写真です。





### ◆謹賀新年

平成の最後の年、混沌としてきた様相、いかなる年に相成りましょうや。己亥(つちのと・い)年は、完成した自己や成熟した組織が足元を固めて次の段階を目指す準備をする、亥の季節は冬・春の芽吹きまでじっと固い種の中でエネルギーを内に込めている、個人は知識を増やす、精神を育てる、組織は人財育成や設備投資、財務基盤を固める、など内部の充実を心がけると良い年とのこと。猪は、無病息災の象徴で、目標に向かって猛進していく人を助ける「火の神の化身」だそうです。我が家のミカン畑は猪に荒らされ、おかげで蜜柑は壊滅状態になりましたが、今年は多少なりとも猪の恩恵にあずかりたいと願っています。



### ◆人材環流

我が社は、「47年間に培った技術をタンスに眠らせるのはもったいない」と、かけがえのない財産にすべく、大いに活かす算段を講じています。先日の日経新聞に「日本の若手経済学者 海外に活路」という見出しがあるのを目にとめました。そうか、経済学も技術かと思った次第です。記事によるとアメリカ、香港などでは、IT企業が経済学のプロを求める動きが広がっていて、高額報酬で企業のデータ分析を依頼しているそうです。振り返りますと、日本の技術者の海外流出は何も今に始まったことではなく、永年の懸案事項であったはず。しかし、日本政府は重い腰を上げようとしなかったし、今もダイナミックに上げようとしていないように思えてなりません。G・A・F・A (Google、Apple、Facebook、Amazonをまとめた呼称)も高額報酬で優秀な人材を集めています。海外に出ていく研究者は「日本ってもう研究とか学問をする国じゃないでしょ?」とか、ある教授曰く「雑用が多すぎて研究に没頭できない」など、悲観的な言葉を実際に聞くことが多々あります。本当に技術後進国に成り下がってしまうのではないかと、及ばずながら危惧しています。海外に行って多くを学ぶ事はまことに結構な事です。やがて日本に帰って成果を発揮してもらいたいと切に願っています。人材流出を人材還流に!

### ◆景気動向

さて、日本国内の2018年度の景気は、高度成長期に4年9カ月続いた「いざなぎ景気」を上回り、2019年1月まで続けば戦後最長景気だった「いざなみ景気」を超えるようです。しかし、まったくその実感はありません。いざなぎ景気は成長率年間10%を超えていました。現在はというと、成長率は1%台ということです。長さは超していますが、成長率の低さは愕然とするばかりです。政府が大きな資金を市場に投入しても、利益を得た企業は、借入金の返済や自己資金の積み立てに躍起になっているようです。消費市場は低迷気味です。血液が体の中を最適に循環していないように思えます。これだけ人手不足なのだから(雇用が伸びているのだから)、もっと活発に消費に連動しても良いのではないかと疑問があります。その答えの一つとして、以下があります。『これまで雇用者数の増加基調を背景に、消費の回復基調は崩れない、いずれ消費も回復基調に戻るとの見方が多かった。だが、足元では雇用と消費の温度差は大きく広がっている。この背景には、雇用者増の多くにおいて、短時間労働者で賄われていることが挙げられる。雇用者数は増えても、その多くが短時間労働者であるため、雇用者数の伸びで見ると、労働投入量[雇用者数×一人あたり労働時間]は増えてこなかった。結果、雇用者報酬[雇用者数×一人あたり賃金]の増加幅も限定的となり、消費は伸び悩んだのだ』(ダイヤモンド社)  
高齢化・少子化、社会保障制度の不安、若者たちの嗜好の変化、魅力的な商品がない、介護費用などの要因もあろうかと思えます。



### ◆2019年は

では、2019年の景気動向を企業はどのように予測しているのか種々の調査結果を見ると、概ね「踊り場と悪化」です。国内の懸念材料として、消費税のアップ、人手不足、原油・素材の価格アップ、外部要因として、米中貿易戦争、円高、株安、英国のEU離脱などがあります。このような内外環境にある中で、我が社は基本的にお客様の“不”の解決に焦点を当てると同時に、人手不足、品質向上、最先端の技術、信用と信頼のワードを掲げて邁進していかなければなりません。顧客の創造をとおして永続的に発展し、社会に貢献することを使命とし、意識を変え・やり方を変え・業績を変えていきましょう。チョットだけ「火の神の化身」の力をお借りして。

今年もご安全に!!

代表取締役社長 赤堀 肇紀